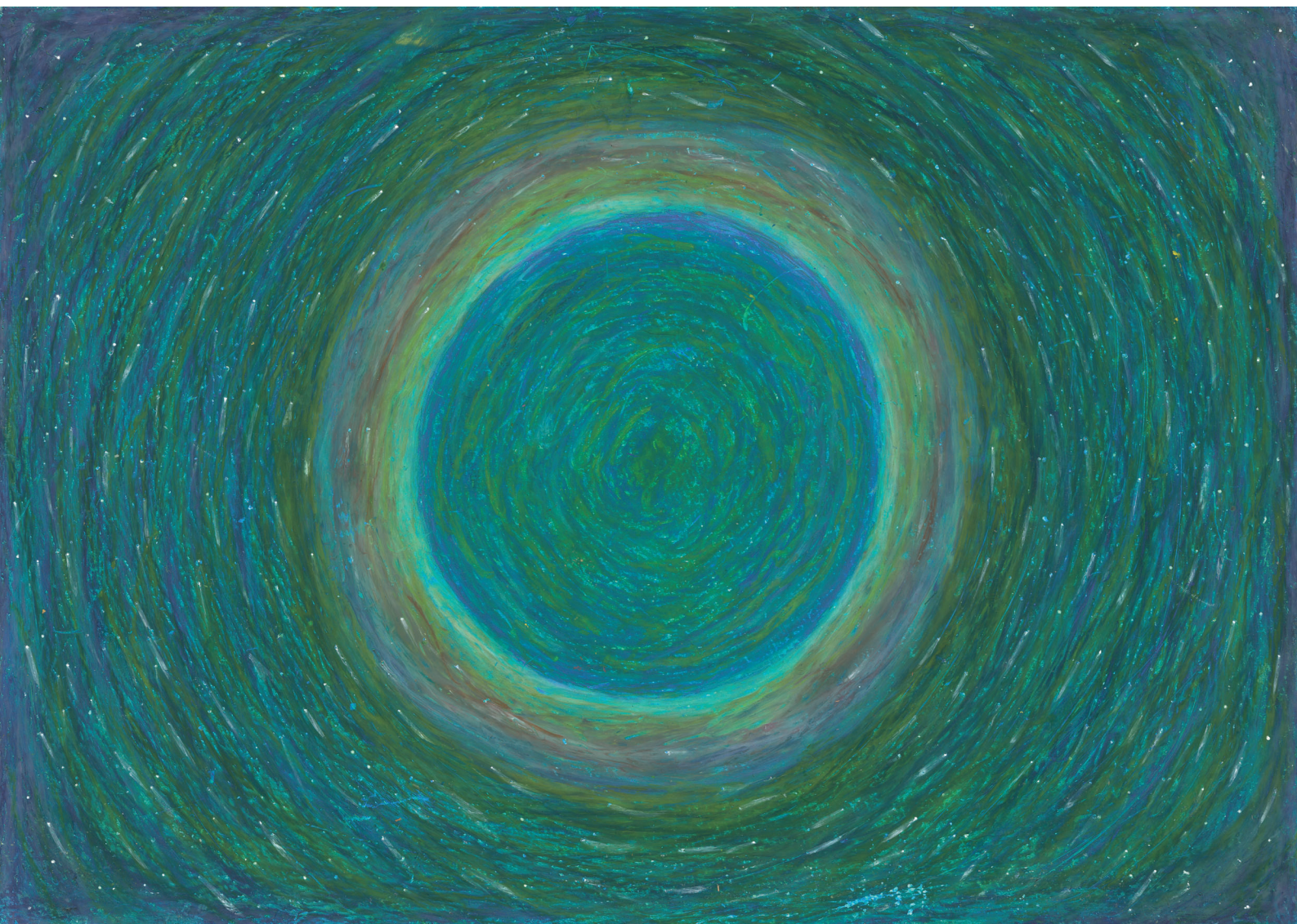


環境レポート 2025

KMEW Environmental Report



Contents

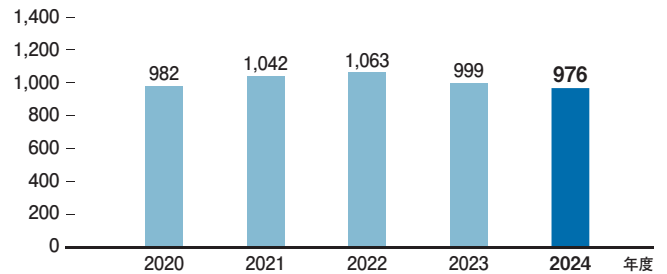
トップメッセージ	2	環境パフォーマンス	
特集		事業活動にともなう環境負荷の全体像	10
KMEW GREEN VISIONの推進	3	気候変動への取り組み	11
SBTi「ネットゼロ目標」の認定を取得	5	化学物質の適正管理とVOC対策	12
環境認証ラベルEPD取得	6	環境負荷を低減する資源の有効活用	13
環境マネジメント		廃棄物の排出削減とリサイクルの推進	14
ケイミュー地球環境憲章	7	社会貢献活動	
環境自主行動計画と実績	8	地域社会との共生	15
環境会計	9		

会社概要

(2025年4月現在)

社名	ケイミュー株式会社 (KMEW)
代表者	代表取締役社長 木村 均
創立	2003年12月1日 株式会社クボタと松下電工(現パナソニック)株式会社の外装建材事業統合
本社	大阪市中央区城見1丁目2番27号 クリスタルタワー13F
資本金	80億円
社員数	1,797名

ケイミュー売上高推移 (億円)

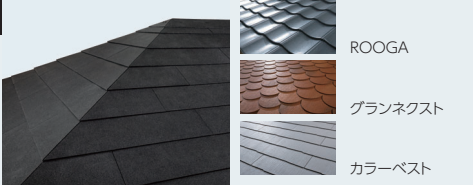


事業領域

私たちケイミュー株式会社は、「環境共生」「安全・安心」「住宅の美しさ」を追求し、住宅外装材専門メーカーとして、豊富な経験で培った品質に対する信頼性と行動力で、時代の一步先を行く商品をお届けしています。

屋根材事業

軽さをすべてに優先させ高いデザイン性と機能性を付加します。



外壁材事業

光触媒の壁「光セラ」などの独自の技術と開発力で強く、美しく住まいを彩る外壁材をお届けします。



雨とい事業 (販売のみ)

耐久性と耐候性に優れた幅広いラインナップの雨といを取りそろえています。



編集にあたって

本レポートは、ケイミューの環境への取り組み理念・方針と実績データを紹介しています。また本年度の3～6ページでは特集として「KMEW GREEN VISIONの推進」「SBTi「ネットゼロ目標」の認定を取得」「環境認証ラベルEPD取得」について紹介しています。

また、本レポートの表紙の作品については、パラリンアートを採用しています。(15ページに採用経緯などを紹介)

● 報告対象範囲

環境への取り組み実績データについては、事業部門を対象としています。

● 対象期間

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)。あわせて2025年度以降の計画・目標も紹介しています。

● 2021年度より冊子による配布を廃止し、WebページにPDFで掲載しておりペーパーレス化を進めています。

● 次回発行は、2026年6月を予定しています。



先進的でサステナブルな企業を目指して

—「持続可能な社会」と「さらなる成長」の両立に向けて—

当社は2003年12月に、株式会社クボタと松下電工株式会社（現：パナソニック株式会社）の住宅外装建材事業を統合し、屋根材・外壁材・雨といをトータルに扱う国内唯一の外装建材メーカーとして誕生しました。以来、軽量かつ高性能な建材の開発を通じて、建物の耐震性・美観・耐久性の向上に貢献し、日本の住環境の質的向上に寄与してまいりました。

設立から20年を経た今、私たちは次の10年を見据えた長期ビジョン「Connect 2033」を策定し、その中核に「先進的でサステナブルな企業への進化」を掲げています。

以下の3つの重点テーマに取り組むことで、「持続可能な社会の実現」と「企業としての成長」の両立を目指しています。

1. 地球温暖化防止

生産プロセスの革新によるCO₂排出削減や、
環境負荷の少ない材料への転換

2. 循環型社会の実現

再生原料を活用した製品開発や、
建築現場での廃材削減の推進

3. 環境価値の提供による企業成長

環境負荷低減に資する商品・サービスの開発と提供

これらのテーマを推進する指針が「KMEW GREEN VISION」です。当社はこのビジョンのもと、2017年度を基準年として、2030年（短期）および2050年（長期）を見据えた温室効果ガス排出量削減目標を設定しています。具体的には、2030年までに

使用電力の再生可能エネルギー化を100%完了し、2050年にはカーボンニュートラルの達成を目指してまいります。

これらの目標は、国際的な気候変動対策の枠組みとも整合しています。2015年の国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP21）で採択されたパリ協定では、産業革命以前と比較して世界の平均気温上昇を「2℃以内」に抑えることが共通目標とされ、「1.5℃以内」に抑えるための努力も追求することで合意されました。当社の取り組みも、こうした地球規模の課題に対し貢献できると確信しています。

こうした背景を踏まえ、当社は2024年9月、国際的な気候変動対策の枠組みである「SBTi (Science Based Targets initiative)」より、「ネットゼロ目標」の認定を取得しました。これは、当社の気候変動への取り組みが科学的根拠に基づく国際的な基準に適合していることを示すものであり、環境に対する責任とさらなる挑戦への強い意志を示すものです。

本レポートでは、2024年度における当社の環境への取り組みと、その成果についてご報告しております。今後も地球環境と誠実に向き合い、持続可能な未来へと価値をつなぐ企業であり続けたいと考えております。本レポートを通じて、当社の取り組みにご理解をいただき、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2025年7月

代表取締役社長 木村 均

ケイミューが見据える長期ビジョン

Connect 2033

暮らしへ社会へ、そして未来へとつなげる NEW VALUE CREATION

2023年12月、ケイミューは会社設立と同時にグループ企業体としての活動を開始、20年目を迎えました。

「新たな価値の創出により、すべての人々が快適に暮らす未来をつくり出し、お客様、従業員、社会から愛される企業を目指します」という経営理念が今日までのグループ活動を支え、それはこれからも変わることはありません。

20年というのはひとつの節目に過ぎませんが、それは同時にケイミューにとっては新たな出発点でもあります。それを踏まえて10年後の2033年における「ケイミューのありたい姿」を描いた長期ビジョンが「Connect 2033」です。

「Connect 2033」に込めたもの

Connect (コネクト) には「つなぐ」「結ぶ」「接続する」などの意味がありますが、ケイミューは10年後を見据えた長期ビジョンを策定するにあたり、「会社を未来につなぐ」「次の世代にバトンをつなぐ」という方向に集約し、それをあるべき企業姿勢として反映させました。

社会の変化を受け止めて

この背景には長引く日本経済の停滞、加速する少子高齢化、デジタル化の大波、さらには住宅分野の省エネ化の要請など、切れ目のない社会の変化があります。こうした動きに企業として適切に対応しなければ次の事業史を構築できない、という考えから「3つのありたい姿 — 目標」を新たに設定しました。





グリーンビジョンの推進—脱炭素社会に向けて

ケイミューは2021年10月に、脱炭素社会の実現に向けたグリーンビジョンを策定し、3つの目標を掲げて取り組んでいます。グリーンビジョンでは2017年を基準年とし、2030年(短期)、2050年(長期)に向けて、温室効果ガス排出量の削減目標を設定しています。具体的なビジョンとして、2030年までに使用電力をすべて再生可能エネルギーに切り替え、2050年にカーボンニュートラルの達成を目指します。

グリーンビジョン 3つの目標

温暖化防止に向けた
CO₂自社排出量の削減と
環境貢献商品の開発

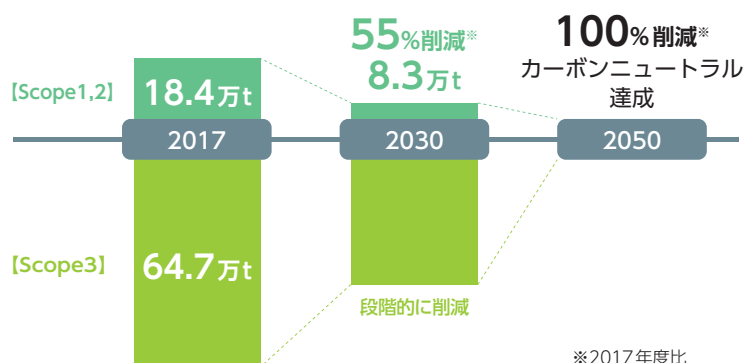
資源の循環利用と
リサイクルによる
循環型社会の形成

事業活動を通じて
社会的な課題の解決を目指す
CSV^{※1}の企業経営を推進する

※1 Creating Shared Value

2050年のカーボンニュートラル達成を目指して

当社でのCO₂排出[Scope1] [Scope2]に加え、上流・下流[Scope3]を含めたサプライチェーン全体で見直します。



Scope1 Scope2 の施策

工場・オフィスの省エネ活動を推進

- 照明・空調・コンプレッサー等を高効率機器に取り替え。
- 各工場の特性にあわせた省エネへの取り組みを推進。
- 働き方改革や業務効率化により生産性を高め、オフィスの消費電力量を削減。

脱炭素エネルギーの活用

- 工場で使用する電気を再生可能エネルギーに切り替え。

工場の生産工程を見直し、脱炭素化

- 生産工程短縮を目指した改善と技術開発により、生産時に発生するCO₂排出量を削減。

Scope3 の施策

低炭素な原材料・商品を開発

- 原材料メーカーと協力し、脱炭素に向けた原材料を開発。
- 耐候性の高い商品(光セラ、ガラスサ)のさらなる追求・普及により、再塗装時に発生するCO₂排出量を削減。
- 遮熱機能商品・部材を使った工法で居住空間の省エネ。
- 防水部材(シーリング)の高品質、高耐久商品の普及と開発。

現場での端材発生や廃棄を削減

- 事前に必要なサイズに加工して納品するプレカットを推進し、現場での端材発生や運搬時のCO₂排出量を削減。
- 端材のリサイクルシステムを構築し、環境負荷を低減。

地産地消の物流網を構築

- 現場に近い工場・配送センターから商品を送る取り組みを進め、製品輸送時のCO₂排出量を削減。



SBTi「ネットゼロ目標」の認定を取得

SBTi認定取得の取り組み

SBTiは、企業が科学的根拠に基づいた環境目標を策定・実行できるよう支援する国際的なイニシアチブです。パリ協定で掲げられた「世界の平均気温上昇を産業革命前と比べて、1.5℃以内に抑える」という目標の実現に向けて、SBTiは企業に向けて目標設定の基準を提示し、その基準に適合する企業を認定しています。

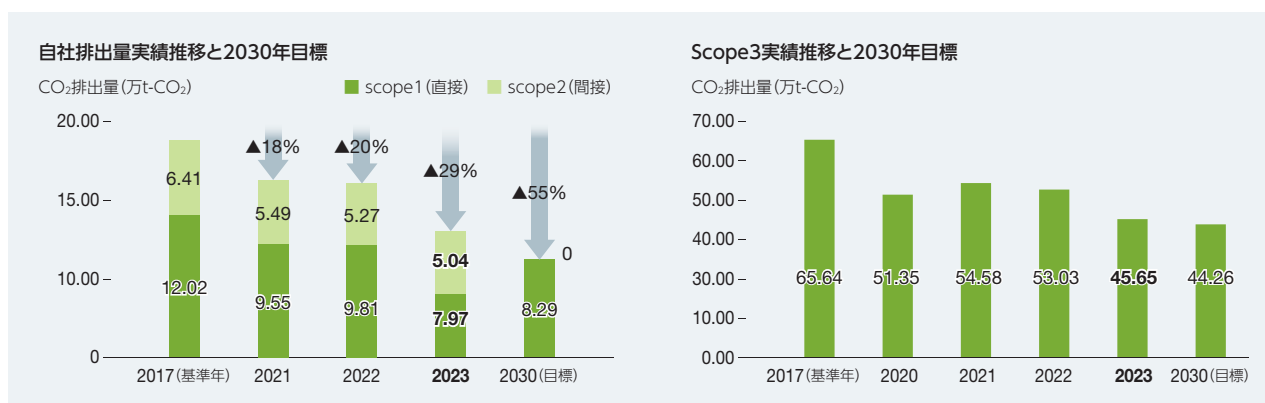
ケイミューではグリーンビジョンの取り組みの一環として、SBTi認証の取得を推進しており、2023年度の当社（工場+事務所）における温室効果ガスの排出量は13.0万t-CO₂となり、基準年の2017年度と比べて約29%の削減を達成しました。一方、2022年度比では、削減率が14%となり、より一層の削減を目指します。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

当社の温室効果ガスの排出量実績



SBTi「ネットゼロ目標」の認定を取得

ケイミューおよび連結会社は、2024年8月にSBTi認定のひとつ「ネットゼロ目標」を取得しました。グリーンビジョンに基づき[Scope1][Scope2][Scope3]に関する施策を着実に推進し、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。

	ネットゼロ目標※1	
	短期目標※2 2030年	長期目標※3 2050年
Scope1+2	55%削減(2017年度比)	95%削減(2017年度比)
Scope3	32.5%削減(2017年度比)	90%削減(2017年度比)

※1 Scope1+2の排出量を95%削減、Scope3の排出量を90%削減、残余排出量は中和化

※2 短期目標:Scope1+2(1.5℃シナリオ)、Scope3(2℃を十分に下回るシナリオ)

※3 長期目標:Scope1+2+3(1.5℃シナリオ)



環境認証ラベル「EPD」を取得

EPD取得の取り組み

EPD^{※1}は環境製品宣言を意味し、製品のライフサイクル全体における温室効果ガスの排出量をCO₂に換算し、LCA（ライフサイクルアセスメント）の手法を用いて定量的に算出したデータに基づく、ISO準拠の環境認証ラベルです。この認証を取得することで、製品に関する情報の透明性が向上し、環境価値の評価が可能となります。また持続可能な建築材料としての信頼性が一層高まります。

アメリカでは、州ごとに公共事業やインフラに使用される建設用材料についてEPDの提出が義務化されつつあります。日本においてもEPDへの関心が高まっており、近年は取得数が急速に増加しています。そして海外展開を重視する当社にとって、国際基準の環境ラベルは重要な課題であり、2023年9月には、商品単体の環境負荷情報であるEPD Hubの認証取得に向けた取り組みを足利工場で開始しました。

※1 Environmental Product Declaration

■ LCA(ライフサイクルアセスメント)



光セラをはじめとする10製品でEPDを取得

ケイミュールは窯業サイディングおよびスレート屋根材において、国内初となる環境認証ラベルEPDを取得^{※2}し、EPD Hub^{※3}にて合計10製品の認証を受けています。

窯業系サイディングおよびスレート屋根材では国内初となります。



※2 最終取得完了日は、2024年9月6日です。

※3 EPD Hubは、タイプIII環境ラベル(製品のライフサイクル全体の定量的環境情報)の認証プログラムです。

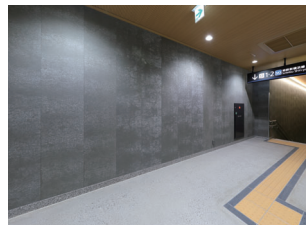
■ 主なEPD取得商品



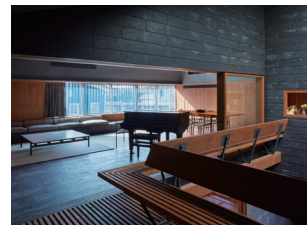
COLOR BEST コロニアルガラス



FLAT DESIGN PANEL グラフィル



SOLIDO typeF coffee



壁: SOLIDO typeMLAP
床: SOLIDO typeMLFLAT

取得商品の詳細は、下記をご覧ください。

<https://www.kmew.co.jp/release/kmew241011.html>

ケイミュー地球環境憲章

地球環境の保全と持続可能な社会の実現に向けて「ケイミュー地球環境憲章」と「ケイミュー環境方針」を掲げ、事業活動のあらゆる側面で環境保全に努めています。

ケイミュー地球環境憲章

基本理念

当社が地球との共生を果たしながら持続的に発展し続けるためには、「地球的規模で持続的な発展が可能な社会」、「企業と地域住民が相互信頼のもとに共生する社会」等に着眼し、足元を見つめた堅実な歩みを続けねばならない。

地球の資源と環境の有限性への理解のもと、地球との共生を求める持続的発展の可能な社会、国内外を問わず、企業と地域住民・消費者とが相互信頼のもとに共生する社会、地球環境保護に配慮しながら創造力豊かな企業活動が展開される社会の実現に努めなければならない。

そのために、全従業員は次の理念のもとに行動するものとする。

1. 産業人としての責務

事業活動に際しては、常に産業人としての責務を重んじた行動をとり、社会に役立つ商品とサービスの提供を行うものとし、社会の公器としての社会的責任の遂行と、企業倫理を全うする事に努める。

2. 環境保全と資源保護

地球環境保護への配慮、資源利用の効率化、資源再生への努力を行うことにより、地球の自然生態系及び有限な資源の保護と生産活動の両立を図る。

3. 国際社会及び地域社会への貢献

企業市民意識への転換と国際社会の一員としての自覚のもと、地域社会との融和・一体化に努め、国際社会・地域社会での雇用の創出、環境保全、優良技術の面での責務を果たすことに努める。

2010年10月1日改定

ケイミュー環境方針

理 念

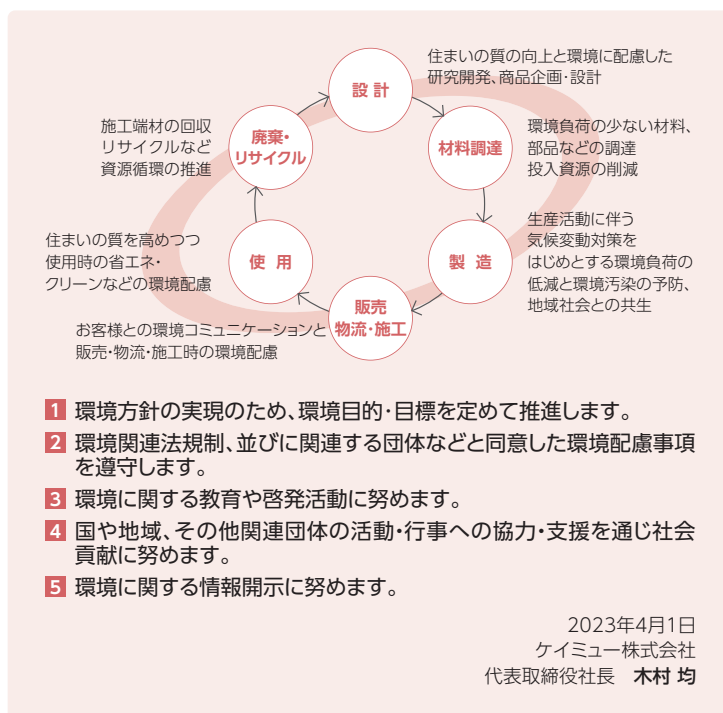
ケイミュー地球環境憲章に基づき、地球環境との共生を果たし、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

私たちは、新たな価値の創出によりすべての人々が快適に暮らす未来をつくり出し、お客様、従業員、社会から愛される企業を目指します。

企業の社会的責任としての地球環境保全への貢献を配慮し、商品の全ライフサイクルにおいて気候変動対策や資源循環の促進などで環境への負荷を減少させつつ住まいの質を高める商品やサービスの提供に取り組みます。そのために、全社環境マネジメントシステムの継続的改善を図りながら、サステナブル先進企業としての責務を遂行します。

※ブランド刷新に伴い「環境方針」を一部改定しました。



環境自主行動計画と実績

環境保護のために中期的な目標を設定して計画的な環境保護を全社的に推進し、その効果について定量的な把握に取り組んでいます。

2024年度 環境自主行動計画と実績

評価  : 目標達成  : 未達成

課題	環境目的	管理指標	2024年度計画	2024年度実績	評価
温暖化防止	温室効果ガスの低減	CO ₂ 総排出量削減(スコープ1,2)	前年度比 6%以上削減	▲12.4%	
		CO ₂ 原単位削減(スコープ1,2)	2013年度比 11%以上削減	▲17.6%	
		使用エネルギー原単位削減	2013年度比 11%以上削減	▲3.6%	
資源循環	廃棄物排出量の削減	廃棄物原単位の削減	前年度比 2%以上削減	+1.0%	
	廃棄物のリサイクル	廃棄物のリサイクル	社外リサイクル率 99%以上	98.2%	
		現場端材の回収リサイクル推進	端材回収リサイクル推進	回収量：0.51万t	
汚染防止	環境負荷物質削減	PRTR対象VOC大気排出量削減	前年度比 2%以上削減	+17.4%	
環境管理	環境保全	環境事故ゼロ	環境事故ゼロ	環境事故1件 環境ヒヤリ 2件	
	環境情報開示	環境報告書制作・開示	環境報告書制作・web開示	Web開示	
	廃棄物適正管理	電子マニフェスト化推進	廃棄物の適正処理推進	適正処理継続	
		廃棄物適正処理推進			
	環境関連法遵守	監査での重大な指摘なし	監査での重大な指摘なし	重大な指摘なし	

2025年度 環境自主行動計画と中期計画

課題	環境目的	2025年度計画	2026年度計画	2030年度計画
温暖化防止	CO ₂ 総排出量削減	前年度比 6%以上削減	前年度比 6%以上削減	2017年度比 55%削減
	CO ₂ 原単位削減	2013年度比 11%以上削減	2013年度比 12%以上削減	2013年度比 16%削減
	エネルギー原単位削減	2013年度比 11%以上削減	2013年度比 12%以上削減	2013年度比 16%削減
資源循環	廃棄物排出量の削減	前年度比 2%以上削減	前年度比 2%以上削減	—
	廃棄物のリサイクル	社外リサイクル率 99%以上	社外リサイクル率 99%以上	—
		端材回収リサイクル推進	端材回収リサイクル推進	—
汚染防止	環境負荷物質削減	前年度比 2%以上削減	前年度比 2%以上削減	—
環境管理	環境保全	環境事故ゼロ	環境事故ゼロ	—
	環境情報開示	環境報告書制作・web開示	環境報告書制作・web開示	—
	廃棄物適正管理	廃棄物の適正処理推進	廃棄物の適正処理推進	—
	環境関連法遵守	監査での重大な指摘なし	監査での重大な指摘なし	—

環境会計

環境保護にかかわる投資と費用、その効果について定量的な把握に取り組んでいます。

環境会計

ケイミューでは環境に配慮した経営を推進するために環境保全に投じたコストとその活動に伴う経済効果などを定量的に把握しています。2024年度は大気・水質汚染などの公害防止対策、プレヒーター・乾燥機、配管の断熱や老朽化した断熱材更新、機器の制御方法、経路の見直しなどのエネルギーロス改善、省エネ効果測定のための計測器や高効率機器の導入など地球環境保全対応に関わる設備に2億1700万円を投じました。

2024年度環境保全コスト(製造事業所・開発部門)					単位:百万円	
分 類		主な取り組み内容	投資額	経 費		
事業エリア内コスト	公害防止コスト	公害防止(大気、水質、土壌、騒音、振動、悪臭、地盤沈下など)	7	237		
	地球環境保全コスト	地球温暖化防止及び省エネルギー、オゾン層保護など	189	205		
	資源循環コスト	廃棄物の削減・リサイクル・適正処理、水使用量の削減	21	393		
小 計			217	835		
上・下流コスト		使用済み製品の回収・リサイクル・適正処理・外部団体への委託費用	0	0		
管理活動コスト		環境マネジメントシステムの整備・運用、情報開示、環境広告、従業員教育など	0	215		
研究開発コスト	技術開発コスト	環境配慮を第一目的とした要素技術開発及び生産のための設備導入	0	41		
	包装・物流開発コスト	環境対応包装の開発・導入、物流における環境負荷抑制のための研究開発	0	0		
	小 計		0	41		
社会活動コスト		環境保全を行う団体や地域住民が行う環境活動などへの寄付と支援	0	0		
環境損傷対応コスト		過去の汚染(地下水、土壌など)に関する調査及び対策など	0	8		
合 計			217	1,099		

設備投資額、費用額において、全額を環境保全コストと判断できない場合は、差額集計あるいは比率集計(按分集計)を行っています。
経費は人件費と設備投資の減価償却費および費用を含んでいます。

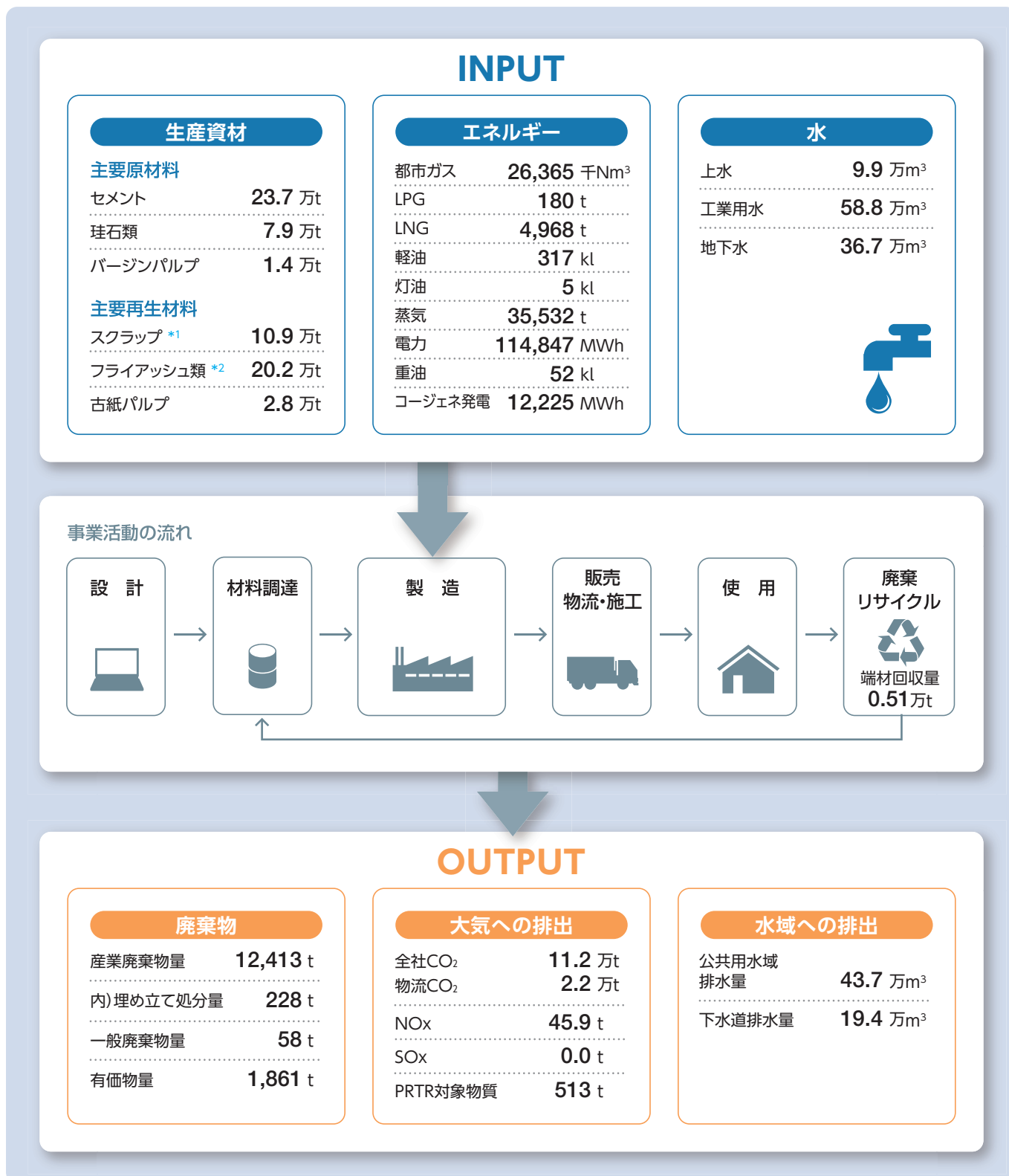
一方、製造事業所・開発部門では断熱などのエネルギーロス改善や回収パレットの再利用による包装材費用の削減、廃棄物の有価物売却を図った結果、企業内経済効果は2億500万円となりました。

2024年度企業内経済効果(製造事業所・開発部門)				単位:百万円	
項 目		経済効果	主な内容		
費用削減	エネルギー費用の削減	30	原料輸送設備、条件の適正化 乾燥機、養生庫の断熱、経路の最適化 高効率の機器への更新		
	廃棄物処理費用の削減	12	廃塗料、汚泥の減容化など		
	上下水費用の削減	0			
	包装材費用の削減	151	回収パレットの再利用		
	物流費用の削減	0			
収 益	事業場廃棄物のリサイクルに関わる有価物売却益	12	金属廃棄物や廃油、廃プラの有価物化		
	使用済み製品リサイクルに関わる有価物売却益	0			
合 計		205			

事業活動にともなう環境負荷の全体像

資材・エネルギーの調達から製造、物流、廃棄・リサイクルまで、事業活動のそれぞれの段階における環境負荷の実態を的確に把握し、効果的な事業運営を行っています。

■ マテリアル&エネルギーフロー図



*1 スクラップ：新築現場で発生した端材や製造工程で製品とならなかったものなどを再生材料としたもの。

*2 フライアッシュ類：火力発電所などで石炭を燃焼させて発生した灰を、電気集塵装置で回収したものなど。



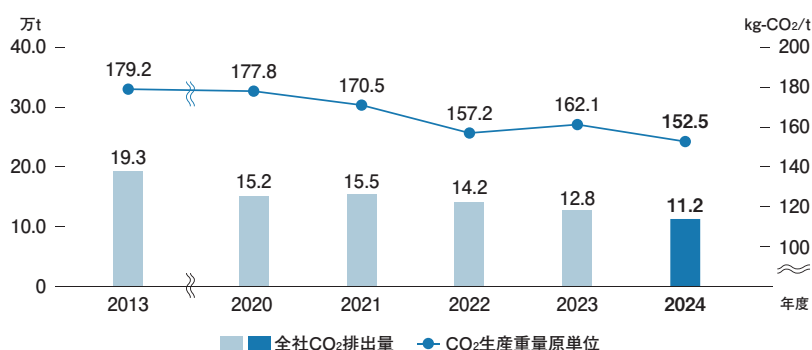
気候変動への取り組み

近年、度重なる集中豪雨などの異常気象は温暖化の影響といわれ、その原因とされるCO₂排出量の削減に全事業所で取り組んでいます。

全社(製造事業所、営業所、物流)におけるCO₂排出量の削減

地球温暖化をめぐり気候変動に関する議論が世界的に広がる中、ケイミューでは全社体制で温室効果ガス(CO₂)の排出量削減に取り組んでいます。気候変動対策の取り組みとして、ケイミュー全社で省エネ活動と再生可能エネルギーへの転換を進めています。

全社CO₂排出量とCO₂生産重量原単位の推移



2024年度 全社CO₂排出量

CO ₂ 排出量	11.2万t -CO ₂
前年度比	12.4%減
2013年度比	44.7%減

2024年度 CO₂生産重量原単位

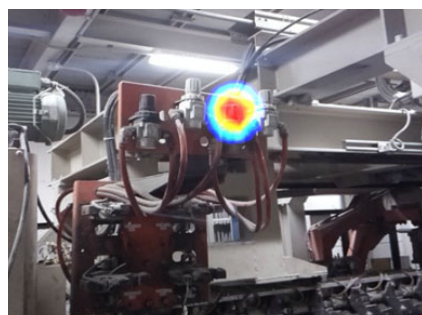
CO ₂ 原単位	152.5kg-CO ₂ /t
前年度比	4.7%減
2013年度比	17.8%減

CO₂の排出量に大きく関わる生産現場では、さまざまな取り組みを展開しています。

全社横断的に推進している省エネ活動(省エネワークショップ)では、ケイミュー独自のエネルギー監視システム「PIシステム」によるエネルギーの見える化を進めています。これにより生産現場でエネルギー使用量を監視し、ムダなエネルギーロスを日々削減しています。また、エアリークビューワーを使用しての、エア漏れを可視化し、エア漏れによるロス削減にも取り組んでいます。

さらに、乾燥機の自動温調化(堺工場)、乾燥機の壁面断熱(足利工場)、オートクレープ回収蒸気量の回収増(北九州工場)、エアポンプの電動化などの高効率化を図り、エネルギー使用量の削減とCO₂の排出量削減を目指しました。

再生可能エネルギーへの転換に関しては、非化石電気の利用(堺工場)により、CO₂排出量を0.9万t-CO₂削減しています。



エアリークビューワーによるエア漏れ削減活動



エアポンプの電動化



乾燥機の壁面断熱(足利工場)

化学物質の適正管理とVOC対策

PRTR法を遵守し化学物質の適正管理・削減に向けて一層の努力を重ねてまいります。

化学物質の適正管理とVOC対策

1997年PRTR法(化学物質排出把握管理促進法)が制定され、ケイミューでは同法の対象となるVOC(揮発性有機化合物)の大気排出量を前年比2%削減することを目標に掲げ取り組んできました。

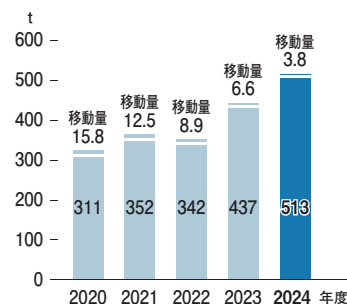
2024年度のPRTR法対象物質の大気排出量は513トン(前年度437トン)となり、前年より17.4%増で、目標の前年比2%削減は未達成となりました。主な要因としてPRTR法が規制強化(対象物質の拡大)され、当社で適用される化学物質が増えたことによるものです。

一方、移動量は生産量減の影響などを受け、3.8トン(前年度6.6トン)と低減しました。

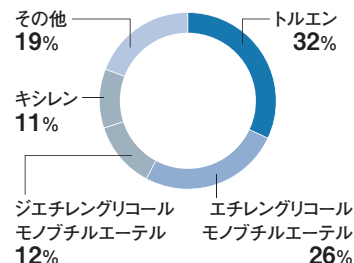
排出・移動量の集計結果(2024年度)

政令 No.	物質名	排出量(t)				移動量(t)	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
73	エチルベンゼン	33.8	0	0	0	0	0.9
77	エチレングリコール モノブチルエーテル	142.9	0	0	0	0	0.0
103	キシレン	62.2	0	0	0	0	1.7
166	ジエタノールアミン	20.9	0	0	0	0	0.0
170	ジエチレングリコール モノブチルエーテル	63.9	0	0	0	0	0.0
342	トリメチルベンゼン	18.6	0	0	0	0	0.0
347	トルエン	171.2	0	0	0	0	1.2
498	メチレンビス(4,1-フェニレン) ジイソシアネート	0.0	0	0	0	0	0.0
合 計		513	0	0	0	0	3.8

PRTR法対象物質の 大気排出量・移動量の推移



化学物質別排出・移動量の割合



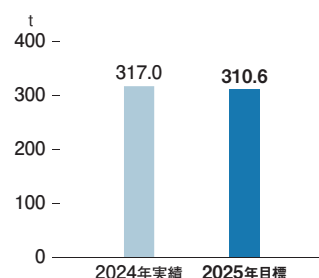
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

2022年4月1日プラスチック資源循環法が制定され、ケイミューでは排出事業者としてプラスチック産業廃棄物の排出の抑制・再資源化に取り組んできました。

2024年度のプラスチック廃棄物社外処理委託量は317.0トンとなり、同法で定める年間排出量250トン以上の多量排出事業者となりました。多量排出事業者として排出の抑制・再資源化などに関する目標として、プラスチック廃棄物社外処理委託量前年2%以上削減の310.6トンと定め、これを達成するための取り組みを展開していく計画です。

排出抑制・再資源化目標		計 画
社外処理委託量	前年比 2% 以上削減	排出抑制 ● 廃プラスチック類の分別による排出抑制 ● 購入品へのプラスチック類包装の簡素化の提案 ● 製造不良削減による梱包材のロス削減
	2024年度 実績 317.0トン 2025年度 目標 310.6トン	再資源化 ● 廃ストレッチフィルム有価引き取り開始 ● 分別回収方法の適正化による再資源化 ● 従業員に対し再資源化に関する教育訓練の実施

廃プラスチック社外処理量



環境負荷を低減する資源の有効活用

地球環境に配慮した再生材料を優先的に使用し限られた資源の有効活用に取り組んでいます。

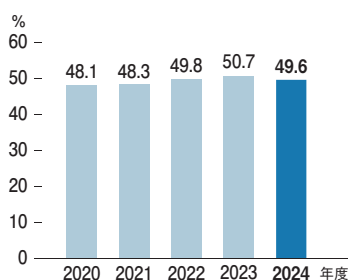
グリーン調達の推進

ケイミューでは製造段階において再生材料を優先的に選択し、環境への負荷低減を図るグリーン調達に取り組んでいます。

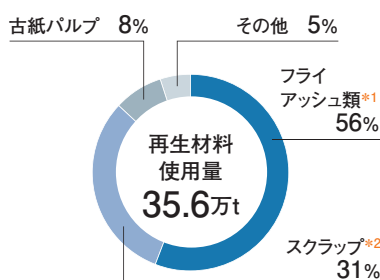
2024年度における再生材料使用量は減産の影響を受けて35.6万トンとなりました。原材料に占める再生材料は49.6%で、グリーン調達比率50%レベルを継続しています。また、産業廃棄物の一種であるフライアッシュ（石炭灰）の使用量は減産に伴い減少となったもののフライアッシュ使用比率は前年度比で1.1%増でした。

今後も原材料に再生材料を活用する技術開発や調達の推進により再生材料を効率的に活用、環境負荷を与えないグリーン調達の比率向上に取り組んでまいります

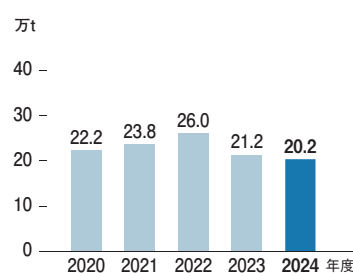
グリーン調達比率(再生材料比率)の推移



グリーン調達材料の内訳(2024年度)



フライアッシュ類 使用量の推移



*1 フライアッシュ類:火力発電所などで石炭を燃焼させて発生した灰を電気集塵装置で回収したもの

*2 スクラップ:新築現場で発生した端材や製造工程で製品とならなかったものなどを再生材料としたもの

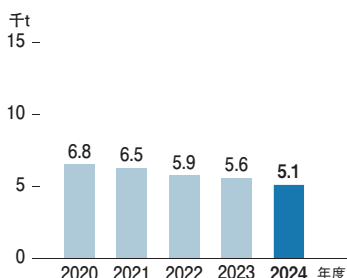
端材回収リサイクルシステム

新築現場などで発生する外壁材や屋根材の端材（切断した後の切れ端）のほとんどは産業廃棄物として廃棄処分されていました。ケイミューでは、早くから新築現場で発生した外壁材、屋根材などの自社端材を積極的に回収し、工場で再原料化するリサイクルシステムを確立し、取り組んできました。

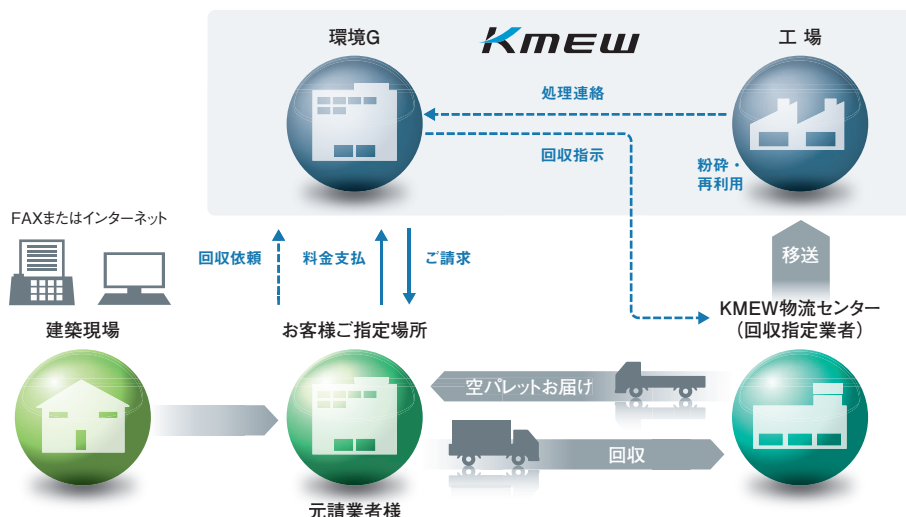
2024年度の新設住宅着工戸数は前年より3.3%減の79万戸となりました。特に販売の主力となる持家は前年比2.8%減、戸建分譲住宅でも8.5%とともに減少しました。また、端材回収量は5,150トンとなり前年比8.2%減少しました。資材の高騰による住宅価格の上昇、物価高による消費マインドの冷え込みなどが住宅販売が減少した要因と言われています。一方、端材を回収する契約社数は2012年度から14年連続して増加しており、2024年度は前年比で約4%増加しました。

持続可能な循環型社会の形成には資源の再利用と活用が不可欠です。当社は端材の回収を通じてその実現を目指します。

端材回収量の推移



端材回収リサイクルシステムフロー図



廃棄物の排出抑制とリサイクルの推進

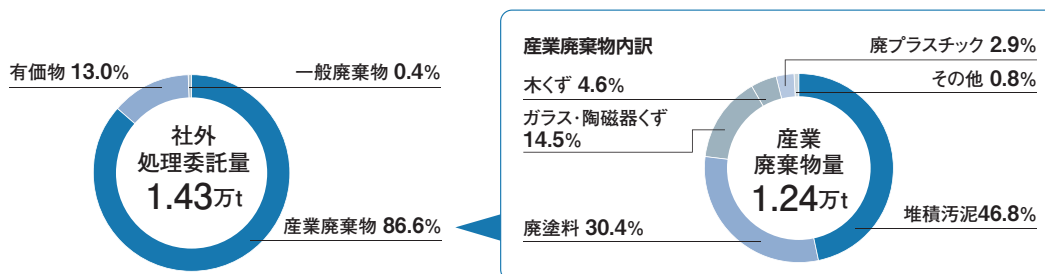
循環型社会の形成を見据え、廃棄物の発生抑制と効率的なリサイクルを推進しています。

廃棄物削減及び社外リサイクルの推進

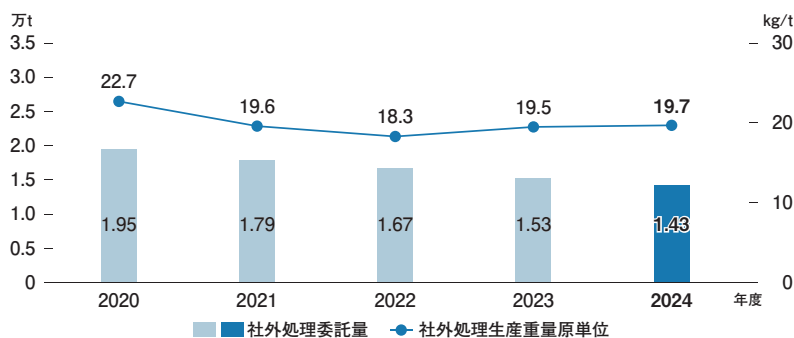
ケイミューの製造事業所では、日々の生産活動の中でさまざまな廃棄物が発生し、いずれは最終埋め立て処分場における残余容量の逼迫が避けられません。廃棄物処理はリサイクルや最終埋め立て処分量の低減が可能な社外の中間処理業者を選定し、その処理を委託しています。

2024年度の社外処理委託量は、1.43万トン、産業廃棄物量は1.24万トンとなり、ともに前年度より低減できました。社外処理重量原単位は、前年度比1.0%と微増となりました。各製造現場では、工程トラブルの低減や生産商品段取り換えの効率化、廃液リサイクルの回収利用推進、排水水質の向上による污泥減少の取り組みや廃液の減容化などで、産業廃棄物の排出抑制に取り組みました。

社外処理委託内訳

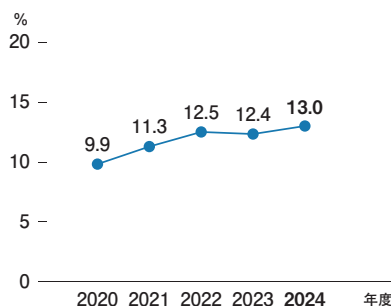


社外処理委託量と原単位の推移

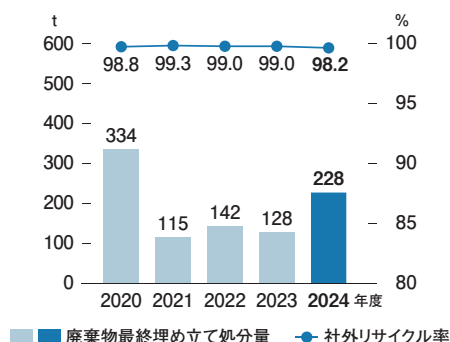


一方、「金属くず」「廃油」「木屑」「廃プラ」などの有価物化を推進し、有価物化比率は向上したものの社外リサイクル率は98.2%となり、99.0%以上の目標達成ができませんでした。

有価物化率の推移



廃棄物最終埋め立て処分量・社外リサイクル率の推移





地域社会との共生

地域との関わりを深め、その絆をより強くするため様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

飛鳥ケイミュー橘の里

日本固有の柑橘種「橘」の栽培を通じて、地域活性化に取り組む「飛鳥ケイミュー橘の里」の活動を推進しています。絶滅危惧種に指定されている橘を「大和橘」として地域ブランド化し、休耕地を活用して栽培。そして障がいのある方々にも栽培作業に参加いただくことで、就労機会を創出し、福祉の面からも地域に貢献しています。

取り組みの成果の一つとして、「大和橘おろしほん酢」の発売があります。この商品は株式会社 良品計画、株式会社 日本果汁、社会福祉法人 青葉仁会との共同企画で誕生し、「無印良品 イオンモール 榎原店」で発売されました。ラベルには「飛鳥ケイミュー橘の里」のロゴが採用されています。



地域の環境美化活動に参加

ケイミューの各工場・事業所では、地域の人々と共に環境美化活動に積極的に取り組み、その絆を強めています。

事業所名	実施日	活動目的	活動名	参加人数
足利工場	5月28日	地域貢献	ゴミゼロ運動（工場周辺清掃）	26名
鹿島工場	6月29日	海岸清掃	神栖市海岸清掃ボランティア	20名
	10月21日	地域貢献	工場前清掃ごみ拾い	45名
小田原工場	10月5日	御幸の浜海岸清掃	地域連合クリーンキャンペーン	3名
	10月15日	工場周辺ゴミ拾い	一斉社会貢献活動	30名
滋賀工場	6月26日	地域清掃	琵琶湖を美しくする運動	6名
	9月21日	地域清掃	びわ湖クリーンキャンペーン	6名
	11月29日	地域清掃	県下一斉清掃運動	4名
伊賀事業所	6月 7日	事業所内及び周辺道路のゴミ拾いと除草作業を実施	ゴミナシ運動	68名
	10月21日	ゴミの分別にもご協力頂きました	ゴミナシ運動	82名
堺工場	10月16日	労働組合の社会貢献活動として、工場周辺の道路の清掃活動実施	社会貢献活動工場周辺清掃	29名
北九州工場	5月26日	環境美化への関心を深める	クリーンまち美化キャンペーン	20名
	10月 9日	環境意識の高揚	ゴミゼロ運動	88名



鹿島工場



伊賀事業所



堺工場



北九州工場

海洋汚染、水質汚染、生物多様性といった環境問題の保全を意識し、今後も地域一体となった生存社会の実現を推進してまいります。

「環境レポート 2025」の表紙にパラリンアートを採用

本冊子の表紙は、障がいを持つアーティストが描いた創作絵画です。テーマは「私たちの地球」、作者は「詩音」さんです。

私たちの社会は、地球の恩恵を受けて成り立っています。この作品のように地球の美しい緑や海のサステナブルな未来を実現するために、ケイミューは「気候変動緩和」「循環型社会づくり」「環境保全活動」といった環境課題に取り組んでいます。ケイミューの環境レポートには、社会貢献活動の一環として昨年度から表紙にパラリンアート作品を採用しており、今後も継続採用していくことで一人ひとりが持てる能力を十分に発揮して活躍できるダイバーシティ&インクルージョンの実現に取り組んでまいります。



未来を、いま、選ぼう

そしてオンリーワンの夢と物語を

ケイミュー株式会社

〒540-6013 大阪市中央区城見1丁目2番27号 クリスタルタワー 13階

● お問い合わせ先 奈良テクノセンター 品質統括部 環境グループ TEL.0743-56-2730 FAX.0743-57-9835

ケイミュー株式会社のホームページ <https://www.kmew.co.jp/>